



年次報告書

Annual Report 2020

中山国際医学医療交流センター

Nakayama International Center for Medical Cooperation

大阪医科大学

Osaka Medical College

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号

TEL 072-683-1221 (代表)

2-7 Daigakumachi, Takatsuki, Osaka 569-8686

<https://www.osaka-med.ac.jp/>

<https://www.osaka-med.ac.jp/en/>

中山国際医学医療交流センター

Nakayama International Center for Medical Cooperation

TEL 072-683-1221 (代表)

<https://www.osaka-med.ac.jp/nicmc.html>



INDEX

03

はじめに

04

ビジョン

05

事業概要

06

交流校一覧

08

2020年交流実績

09

中山国際医学医療交流センター 構成

10

各教室・部署協力教員(窓口担当者)

はじめに



中山国際医学医療交流センターは医学教育、研究、医療技術の国際交流を目的として1998年1月に設立されました。センターの名称に「中山」とあるのは、本学出身の中山太郎先生を顕彰するものです。先生は二期にわたって外務大臣として活躍され、ロシア友好勲章を受賞されています。先生のご尽力で発足した当センターの海外交流活動もロシアのアムール医科アカデミーとの交流から始まりました。

これまで当センターは海外の大学、研究機関、病院などと、学部学生の学生交流、大学院生や教職員の学術交流、国際シンポジウムの開催など多岐にわたる交流をすすめて来ました。

今後とも当センターにご協力いただき、本学のグローバル化に向けた活動を盛り上げていただきますようお願い申し上げます。



今、日本の大学は、学術の場として国際性を備えることが問われています。一部の大学は、先端科学を志向して、世界の科学技術をリードする研究を行おうとしています。一方で、地域の学びの中心として立脚し、国際性を掲げながら研究と人材育成を展開している大学もあります。大阪医科大学(以下、本学)は、このような状況の中で、自らに必要な国際化のポリシーを打ち出します。本学は、人材養成を最優先事項とし、質・量ともに充実した教育を行い、豊かな教養と確かな専門的知識と技能、広い視野と総合的な判断力、優れたコミュニケーション能力に加え、自立性と国際性を備えた人材を社会に輩出することを使命としています。教育と研究の特性を生かした大学の国際化を推進し、学生と教員の国際性を高めて、地域社会の活性化に貢献します。

このビジョンは、本学の基本的なスタンスとともに、そのために必要な国際化の意義を示すものです。近年、我が国は人口減少と超高齢化に晒されるようになりました。我が国の大学では、海外へ留学する日本人学生数、及び海外からの留学生数が減少する傾向を見せています。語学力とコミュニケーション能力を持つこと、異文化の相互理解など、本学が国際性の追求のもとに培うべき要素は、以前より重要度が増しています。

本学は教育面において、本学学生に対して、英語をはじめとする外国語のコミュニケーション能力を研鑽する機会と、実際に海外で学習する機会を提供しています。外国人留学生に対しては、日本の医療を学習する機会を与え、日常生活と修学で困難に陥らない環境を作り、本学学生と一緒に学習して地域の医療機関や住民と交流する機会を設けます。

今後においては、本学の学生が、留学に関する各種の支援を受けて、海外で学びやすい環境で修学し、語学や文化の理解のもとに、国際化に関するコミュニケーション能力を高め、気概とやりがいを持って、留学に挑戦出来る環境作りを益々発展させます。

外国人留学生に対しては、組織的な支援体制のもとに、安心して勉学し先進知識を旺盛に吸収し、本学で学んだ専門性と国際性を生かして、母国の発展に貢献出来るようにします。また、修了後も、教育研究活動を通して本学との関係を継続できるようになることを目指しています。

世界で活躍できるグローバル医療人の育成のため、医学部・看護学部学生の海外研修プログラムを実施しています。

学生海外派遣



日本の医療教育を海外発信するため、世界各国から医学部生、看護学部生の受入れプログラム実施しています。

留学生受入れ



グローバル人材育成



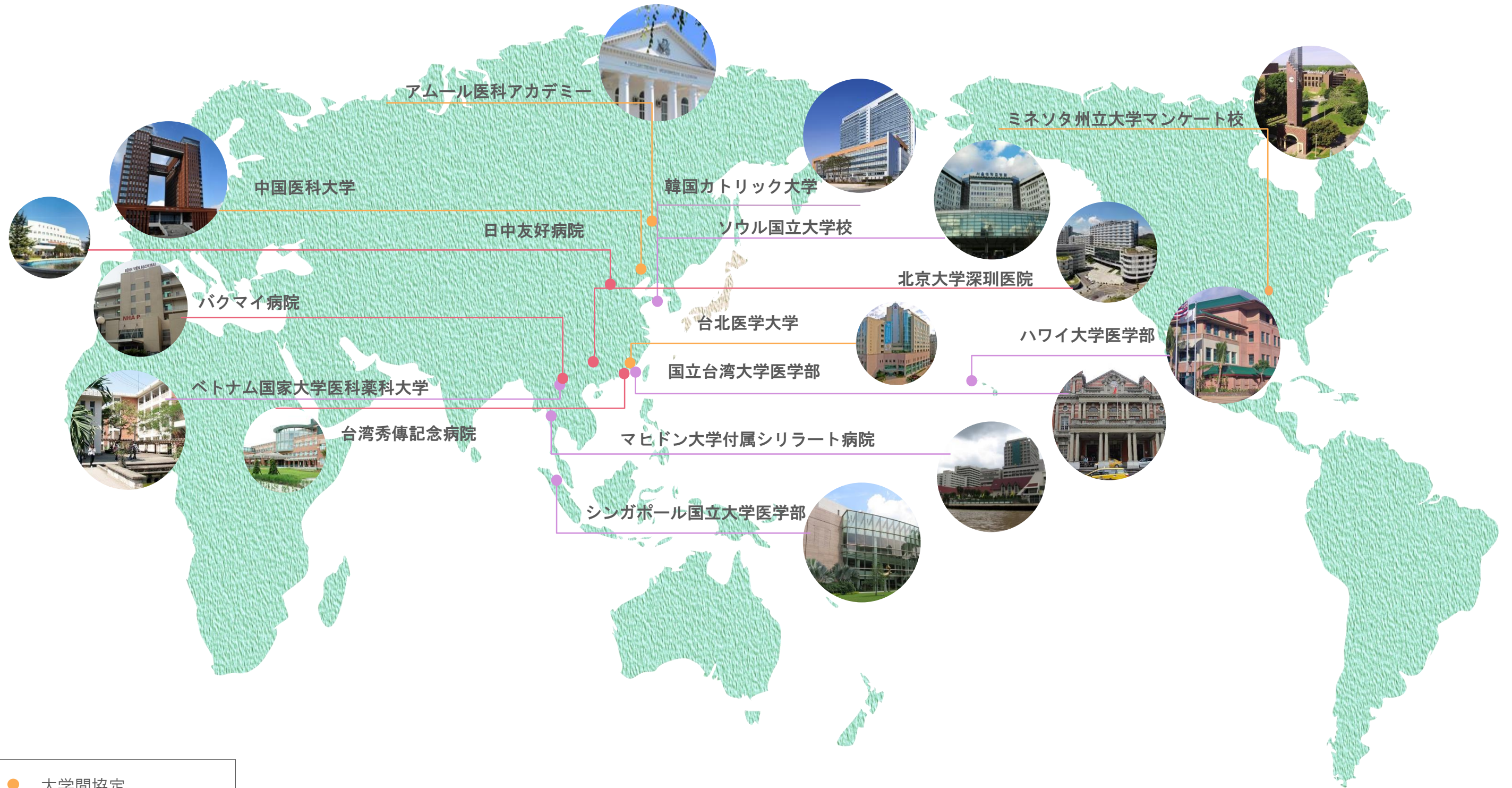
研究者支援

海外交流支援制度を設け、本学の研究者と海外研究者の支援を行っています。



グローバルネットワーク構築

世界をけん引する医療者育成のため、アジアの大学を中心に医療教育、研究のネットワーク構築を行っています。



国際シンポジウム

「西大西洋地域のCOVID-19の状況とWHOの対応」

WHO西太平洋事務局事務局長室次長の野崎慎二郎先生をお招きし、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大の現状と対策についての講演会を開催しました。

2020.12.15



JSTさくらサイエンスプラン

「ゲノム解析による疾患予防共同プログラム」

オンラインにて2019年度に実施したプログラムのフォローアッププログラムを開催しました。本学からは微生物学教室、公衆衛生学教室が研究を提示し、国立台湾大学からは教員、大学院生が研究発表して研究交流を行いました。

2021.2.26 / 2021.3.5



中山国際医学医療交流センター

運営委員会

教員組織

センター長

副センター長

事務組織

課長

主任

アルバイト

運営委員会委員

	氏名	所属・職位
委員長	近藤 洋一	中山国際医学医療交流センターセンター長、解剖学教授
委員	南 敏明	附属病院 病院長
委員	大槻 勝紀	医学部長、学長
委員	河田 了	医学教育センター長、耳鼻咽喉科学/頭頸部外科学教授
委員	赤澤 千春	看護学部長
委員	鈴木 久美	看護学教育センター長、看護実践発展学教授
委員	荒木 孝治	看護学実践研究センター長、精神看護学教授
委員	池田 恒彦	眼科学教授
委員	朝日 道雄	薬理学教授
委員	小野 富三人	生理学教授
委員	鰐淵 昌彦	脳神経外科学教授
委員	植野 高章	口腔外科学教授
委員	大須賀 慶悟	放射線診断学
委員	藤枝 美穂	語学(英語)教授
委員	近藤 恵	中山国際医学医療交流センター副センター長、中山国際医学医療交流センター講師



医学部

看護学部

スタンフォードVIA

EHC オンラインプログラム

EHC (Exploring Health Care)は医療関係分野を専攻するアジア学生向けのプログラムで、医療について英語で理解を深められる内容となっています。2020年度はオンラインで行われました。

医学部から 1年生1名
看護学部から 3年生1名 が参加しました。
2021.3.21~3.27



教室名	科	職位	氏名
内科学Ⅰ	糖尿病代謝・内分泌内科	助教	金網 規夫
	呼吸器・呼吸器腫瘍内科	講師	池田 宗一郎
	血液内科	講師	秋岡寿一
内科学Ⅱ	消化器内科	講師	柿本 一城
内科学Ⅲ	循環器内科	専門教授	星賀 正明
		講師	伊藤 隆英
		講師	神崎 裕美子
		講師(准)	森田 英晃
	講師	谷川 淳	
腎臓内科	教授	美馬 晶	
内科学Ⅳ	脳神経内科	教授	荒若 繁樹
		講師	石田 志門
		講師(准)	細川 隆史
	リウマチ膠原病内科	診療准教授	武内 徹
		講師(准)	小谷 卓矢
神経精神医学	神経精神科	教授	金沢 徹文
一般消化器外科	一般・消化器・小児・乳腺・内分泌外科	講師	富山 英紀
胸部外科	心臓血管・呼吸器外科	教授	勝間田 敬弘
脳神経外科	脳神経・脳血管外科	教授	鰐淵 昌彦
整形外科	整形外科	助教	藤城 高志
小児科学	小児科・新生児科	助教	岸 勘太
		助教	吉田 誠司
産婦人科学	婦人科・腫瘍科・産科・生殖医学科	講師	佐々木 弘
眼科学	眼科	教授	池田 恒彦

教室名	科	職位	氏名
耳鼻咽喉科学	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	講師	東野 正明
皮膚科学	皮膚科	助教	金田 一真
泌尿器科学	腎泌尿器外科	助教	小村 和正
放射線診断学	放射線診断科	教授	大須賀 慶悟
		准教授	小森 剛
放射線腫瘍学	放射線腫瘍科	教授	二瓶 圭二
		講師	新保 大樹
		助教	吉岡 裕人
		助教(准)	中田 美緒
麻酔科学	麻酔科・ペインクリニック	助教	中平 淳子
		助教	中野 祥子
		特別任命教員教授	日下 裕介
形成外科学	形成外科	教授	上田 晃一
		講師	塗 隆志
		講師	大槻 祐喜
リハビリテーション医学	リハビリテーション科	教授	佐浦 隆一
		講師	仲野 春樹
救急医学	救急医学科	教授	高須 朗
		准教授	山川 一馬
		特別職務担当職員	大石 泰男
		講師	新田 雅彦
地域総合診療科学	総合診療科	教授	鈴木 富雄
口腔外科学	口腔外科	講師	中野 旬之